

【優秀賞】

【世界中の子どもの笑顔のために】

設楽町立津具中学校 三年 村松 和奏

私はユニセフ協会の「十三歳のアーシャの一日」という動画を見ました。その動画には、ポリタンクを背負ったラクダを連れて朝早くから夕方近くまで炎天下の砂漠を歩き続け、水を汲むエチオピアの少女が映っていました。その水は炊事や洗濯に使われ、飲み水としても使われていました。けれども、それは決してきれいな水ではなく、泥の混ざった茶色の水でした。そして、また朝が来て同じ一日が始まります。それでも手に入れられるのは、一人当たりわずか五リットル未満の茶色い水だけです。少女が水汲みに費やす時間は毎日八時間、私たちが学校へ通い、授業や部活動を楽しんでいるとき、少女は水汲みをしているのです。少女のように学校に通うこともできず、生きるために水汲みを仕事としている子どもがたくさんいるということを知り、私は胸が締めつけられました。

この過酷な事実を知り、私は自分がいかに水に恵まれた幸せな毎日を過ごしているのかを実感すると同時に、海外の水事情についてもっと知らなければと思うようになりました。

そして、私は水についてインターネットや本で調べてみました。世界には安全に管理された水を飲むことができない国が多くあり、人々は川や湖、用水路などから水を汲んでいることを知りました。その半数近くがアフリカ諸国に集中していて、多くの発展途上国では水汲みが子どもの仕事になっていました。

私が知った現実はいかに辛く悲しいものでした。ようやく水源にたどり着いても、その水の多くは、泥や細菌、動物の糞尿などが混じった危険な水で、浄水処理をしないで飲むと、体力のない子どもは下痢を起こしてしまいます。年間三十万人、毎日八百人以上が命を落としていることに衝撃を受けました。安全な水が身近にあるか否かは、子どもの命にかかわる一生を左右する重大なことです。

家の近くに安全な水を確保できる井戸や水道があれば、水汲みに時間

を費やすことなく、学校で学ぶ時間をもてるようになります。身体や衣服も清潔に保てるようになり、病気にもかかりにくくなります。安全な水が子どもの教育を保障し、子どもの明るい未来を築くと言っても過言ではないと思います。

今年の四月、新しいALTが赴任されました。ウガンダ出身のダニエル先生です。先生は英語だけでなく世界のいろいろな国の生活や文化について教えてくださいます。真剣な表情でこんなことも語ってくださいました。「ウガンダでは都市には水道があるけれど、蛇口から出る水をそのまま飲むことはできないよ。沸かさないと飲めない。田舎には水道がないところが多くて、井戸をみんな使ったり、川の水を使ったりしているよ。水を汲む子どももたくさんいるよ。日本はきれいな安全な水があつて、みんなは幸せだよ。」

先生のお話を聞き、私は水汲みの少女アーシャのことを思い出しました。切なそうな瞳が浮かんできました。そして、私は自分にできることを考え、実行するようになりました。

水は世界につながっています。洗剤やシャンプーの使い過ぎに気を付けて川を汚染しないように努めています。美しい日本の水を守ることは、世界の水を守ることにあります。

また、水は限りある資源だということを家族や学級の友達に伝えて水を呼びかけることも始めました。みんなが水の大切さを意識して生活していくことが、これからの日本や世界の水を守っていく秘訣だと思います。

将来、自分が働くようになったら発展途上国に井戸を掘ったり、水道を引いたりすることを応援する募金活動などにも協力したいと考えています。世界中の子どもが笑顔で明るい毎日を過ごすためにきれいな安全な水は欠かせません。一人でも多くの子どもに幸せを運ぶ水を届けるために、世界中の子どもの笑顔のために、私にできることをしていきます。